

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2025年8月25日
第25号

ソロコンクール3名が北海道本選へ

クラリネットホルンサククス

荻野華奈・山本侑来・川越未遥

第35回日本クラシック音楽コンクール札幌地区予選に吹奏楽部の3名が出場し、全道大会への出場権を得た。昨年の木村花音さんに続き、全国大会出場を目指し、研鑽している。

落ちていて本領発揮

荻野華奈さん

メサジェ作曲「ソロド・コンクール」を演奏した。「連符が多く難曲ですが、ピアノ伴奏がかっこいい。歌う部分と技巧的

な部分が両方あります。本番は緊張せず、落ちていて演奏できました。あつという間に終わりました」と語る。審査員講評は概ね好評だったが、「激しい部分とゆったりした部分の音色の



3-3 荻野華奈さん

3-3 山本侑来さん

2-2 川越未遥さん

違いをもっと出す。高音の処理を丁寧」という助言を頂いたという。

本番で一番の演奏できた

山本侑来さん

モーツァルト作曲「ホルン協奏曲第3番 1楽章」を演奏した。「華やかで明るい曲。モーツァルトが友人に気さくに話しているイメージです。前日のリハーサルはポロポロでしたが、本番では「ここまで来たら、思い切り演奏するしかない」と覚悟でき、不安よりも楽しみになっていました」と言う。本番はミスも少なく、一番良い演奏ができたそう。審査員3名はよく知っている方々だった。「綺麗な音色で堂々と演奏していて感動した」とのコメントをもらった。また、「もっとメリハリのある表現を」と聴かせどころを考えて吹くことを求められた。

自分の表現ができた

川越未遥さん

「プレリユードとサルタレロ」(ロベール・プラメル作曲)を演奏した。「ゆつたりした曲で、おしやれな音が沢山あるので、ムードを大切に、その世界が伝わるように努めた」と言う。「すごく緊張したが、自分の表現したいところではできた」と川越さん。審査員からは「中音域の音色がまとまっていなくて、速いテンポのタンニングの仕方に気をつける」といった助言を頂いた。

定期演奏会(9月21日)の先にある北海道本選(9月30日、10月1日)。それぞれ、全国大会出場を目指して、音を究める。

高文連支部写真展「依存」本間香音さん

8月23日、市立小樽美術館で高文連支部写真研究大会が開催された。最優秀作品に本間香音さんの「依存」が選ばれた。他に入選に5、佳作に11作品が選ばれた。本校の存在感を示した。

<高文連後志支部写真研究大会> 8月23日(土) 市立小樽美術館

最優秀入選	「依存」 「弟、兄の傲い」 「もうひとりの私へ」 ※グループ作品	2年2組 3年1組 3年2組	本間香音 下村福丸 江村蛍汰
佳作	「協し合って」 「とどけ!」 「水遊び」 「春愁」 「水中の万華鏡」 「桜の下の約束」 「シャッターを切る瞬間」 「蝶の舞」 「思考の旅路」 「ねえ、こっちみて」 「余韻」 「Apple!?!」 「葉陰のひととき」 「母親の味」 ※グループ作品	3年2組 3年2組 3年3組 1年1組 3年1組 3年2組 3年2組 3年2組 3年2組 3年3組 3年3組 3年2組 2年4組 1年1組 3年1組 3年2組 3年2組 3年2組	小石川倫太郎 小林由香利 三影はつか 村上仁皐 三田彩葉 江村蛍汰 江村蛍汰 菅野悠生 對馬 慶 澤田桃伽 高橋 乙 臼杵悠人 岸本芽依 村上仁皐 下村福丸 小石川倫太郎 對馬 慶 菅野悠生

高文連支部新聞研究大会 20名が真剣に討議



小樽潮陵、桜陽、倶知安と本校の4校が参加し、グループに分かれ、高校生新聞の必要性、局員の集め方を討議した。

8月20日、小樽桜陽高校で支部新聞研究大会が開催された。支部総会の後、菅原淳先生による講演と新聞クリニック、全道大会に備えるための模擬分科会「支部活動を活発にするために」が行われた。提案者の落合優翔くんは緊張して発表したが、「全道大会に向けて良い経験ができた」と語る。参加者は真剣に討議に参加し、実りある分科会となった。